



東京

TOKYO MOKKOUJOU
ARTS & CRAFTS FURNISHINGS

木工場



子どもたちに誇れるしごとを。

SHIMIZU CORPORATION 
清水建設

匠の技で 木の可能性を 追求し続ける

東京木工場

創業者・清水喜助のものづくりのこころを継承する一。
東京木工場には、清水建設のこの強い想いが刻まれています。

1804(文化元)年、清水喜助は21歳のとき、神田鍛冶町で大工職の看板を掲げました。
熱心で確かな仕事ぶりと誠実な人柄により、世間から信頼され、商売の基礎を固めていきました。

その80年後の1884年(明治17)年、清水満之助店(清水建設の前身)は、
深川島田町(現・江東区木場)にあった幕府御用木材商の敷地跡を取得し、
貯木場、木材切組場として作業所を開設。これが現在の東京木工場の始まりです。

以来、約130余年にわたり、清水建設が手掛ける建築の木工事を担ってきました。
常に、ものづくりへの真摯な姿勢を忘れずに、技を磨き品質向上を目指すとともに、
時代の変化に応じた新たな挑戦により、木の可能性を追求し続けています。

木工場の主な歩み

- 1884年(明治17年) 深川島田町二番地(現 江東区木場2-15-3)に清水満之助店木材切組場として作業所を開設
- 1896年(明治29年) 蒸気動力の製材機を設置、各現場の木材需要に応じる
- 1909年(明治42年) 製材機ならびに建具機械を設置、工場を整備し深川工作場と称する
- 1923年(大正12年) 関東大震災に際して、馬車や船便を利用し、木材集積所として帝都復興に貢献
- 1945年(昭和20年) 戦後再建し、復興に必要な資材調達に協力しつつ、工場設備の拡充を図る
- 1952年(昭和27年) 木工技術を開発し、練り付け造作工事を施工
- 1955年(昭和30年) 建具造作工場を新設し、建具造作製品の品質向上と工事量増大を図る。
また、ホットプレスを新設し、単板による高級化粧合板の製造を開始
- 1956年(昭和31年) 木材成形加工のための高周波加熱接着装置を新設
- 1962年(昭和37年) 木工事の需要増大に伴い第四工場を新設。合板作業の急増に伴い5段ホットプレスを新設。
フラッシュドアの量産化を図る。
東京木工場と改称
- 1967年(昭和42年) 第三工場を新築。長尺ホットプレスを設置、宮殿造営に威力を発揮
- 1969年(昭和44年) 天然単板を表面化粧とした「シミス高級化粧不燃板」を開発、建設大臣の認定を取得
- 1979年(昭和54年) 全社品質管理(TQC)導入
- 1983年(昭和58年) 通産省「工業生産住宅等品質管理優良工場」の認定を取得。
また、会社として全社品質管理(TQC)を推進しデミング賞を受賞
- 1988年(昭和63年) 労働大臣安全優良賞を受賞
- 1992年(平成4年) CADシステムを本格的に導入。設計業務の合理化を図る
- 1994年(平成6年) 業種別無災害最長記録証(3,317,714時間)を受賞
- 1996年(平成8年) (財)建材試験センターよりISO9001の認証を取得
- 1997年(平成9年) 技能グランプリ家具制作部門で労働大臣賞を受賞
- 2005年(平成17年) 技能五輪世界大会「家具職種」に出場
- 2010年(平成22年) 「IPEC(アイベック:インテリアのプロと企業をつなぐ国際展示会)2010」で優秀賞を受賞
- 2011年(平成23年) コンピュータ制御の大型加工機械「NCルーター」と自動縁貼機を導入。
株主優待制度スタートにより、同優待品として木工製品を製作
- 2013年(平成25年) 東京木工場オリジナル木工製品「kino style」の社内販売を開始
- 2014年(平成26年) コンピュータ制御のレーザー加工機を導入。低騒音型集塵装置を新設
- 2018年(平成30年) FSC®CoC認証の取得
- 軸傾斜が可能なNCルーターを導入



東京木工場のしごと

東京木工場では、総勢約50名が一体となって施工図の作成から製品の製作、施工、メンテナンスまでを、一貫して行っています。

1 施工図



設計者からの設計図をもとに、実際の寸法や木材の納まり方を詳細に記した施工図を作成します。お客様のニーズに合わせ、材料の選定から設計案の調整まで、最適な提案を行います。

2 製作



施工図をもとに、材料の特性を考慮しながら木材の加工を行います。家具や建具、化粧板などを製作するほか、建物の移築、保存、復元などでは、「木の目利き」として活躍しています。

3 施工



木工場の製品が現場に搬入された後に行う、取り付け作業の一連の工程を指揮、管理します。最適なコストや工期、施工方法などを計画し、工程通りに進んでいるかを確認、調整します。

4 メンテナンス



建物を使用しているうちにできる木の傷や、経年による変形や破損などの補修を行います。現地に赴き状況を確認し、対応します。木の匠ならではの、質の高いメンテナンスを行います。

木工場の匠の技

TAKUMI
NO
WAZA

東京木工場は、木目や材質に合わせた木取りや加工、単板の木目合わせ、仕口、製作における刻みや組立方法塗装での色合わせなど、各工程に関する深い知識を持つ熟練の「匠」の集団です。木工場の随所で光る匠の技の一部をご紹介します。



単板検収

単板とは、厚さ0.2～1.5mmに薄く紙状にスライスした木材のことです。匠は、この単板を一枚ずつ検査・選別した後、何枚台板に貼り付ければ図面通りの仕上がりとなるかを計算し、木目と単板の両端がまっすぐ平行になるようカットしていきます。



練り付け

練り付けとは、単板をベニヤ板や不燃板などの台板に貼り付ける作業です。単板は、その材料によって癖が異なるため、プレス後に伸びたり縮んだりします。

Master Craftsmanship



木取・加工

木取とは、丸太や大きな塊の木を、使う目的に適した大きさに製材することです。木取・加工とも、木目や材質を合わせなければならないため、木に関する深い知識と長年の経験が必要とします。



造作

造作では、基本的な組立方法は存在しますが、実際には造るものにより形や材質が異なるため、その都度それに適した仕口や加工方法を考案し、工夫しなければなりません。

東京木工場の実績

長い歴史の中で育んできた木工技術とノウハウの伝承が生み出した、さまざまな木工事を紹介します。

近年の主な実績



東京大学 大講堂(安田講堂)



読売新聞ビル



日本オラクル



立教大学 本館



東京文化会館



東京国税局



東京女子大学本館



カトリック・カノッサ修道院



歌舞伎座

代表的な実績



聖イグナチオ教会



横浜港大さん橋 国際客船ターミナル



日本工業倶楽部会館



伊勢神宮 外宮神楽殿



清水建設 本社



交詢ビルディング



東京木工場の 木育

木育 mokuiku

2004年に北海道で生まれた言葉で、日本の森の維持・木に対する親しみや、文化への理解を深め、原体験として木に触れることで、「子どもたちの豊かな心を育てよう」という意味が込められています。

東京木工場では、木の魅力を伝えるさまざまな活動を行っています。中でも特に、子どもたちにより深く木を知ってもらおう、木を好きになってもらおう、という思いから、「木工教室」というカタチで「木育活動」に取り組んでいます。活動を通じて、子どもたちが「木ってこんな素材なんだ」と気づき、「ものづくりって楽しい!」という体験をしてもらうことを大切にしています。

夏休み親子木工教室

2007年から取り組んでいる「夏休み親子木工教室」は東京木工場で最大規模の木育活動です。清水建設の社員家族を中心に、設計事務所やお得意先の小学校のお子さんを持つ親子を招待し、毎年開催しています。

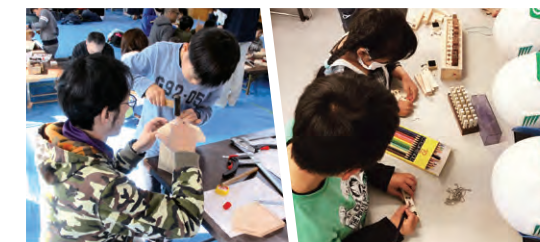
国産の間伐材ヒノキを使った木工課題の中から好きなものを選び、のこぎりや玄翁（金づち）など、基礎的な大工道具を使って課題をつくり、完成品には好きな仕上げを施すことで、愛着を持って使えるようにしています。



全国での活動



全国各地にある清水建設の現場では、地域貢献活動の一環として、現場見学会や、近隣のお祭りへの出展など様々な活動を行っています。その一つとして、東京木工場では全国の現場から依頼を受け、各地で木工教室を開催しています。



地域と木育

東京木工場では、2015年から近隣保育園の園児を対象にした木育活動に取り組んでいます。年長組の園児たちが毎週金曜日に木工場へ来て、さまざまな課題に挑戦しています。1年間かけて徐々に複雑な作業を行っていくことで、ものづくりや木のことを知ってもらいます。





木を使って **森** を守る

竣工記念家具プロジェクト

東京木工場の取り組みの一つとして、竣工記念家具の製作を行っています。森林を守るという観点から、FSC®認証を受けた森林から採れる、全国トップクラスの粘り強さと高い強度を持つ天竜杉を使用。その中でも、樹齢80年以上の材を厳選しています。



木工場で使用する木材の生産地、静岡県浜松市天竜FSCの森



FSC® CoC 認証※を取得

森林の減少、気候変動への影響、社会への影響、違法伐採による経済的損失など、世界の森林が抱える諸問題に対して、「適性に管理された森林から産出された木材を使用することによって森林を守ろう」という取り組みに賛同し、東京木工場は2018年2月に、森林認証制度のうちで最も認証件数が多く、国際的に信頼性が高いFSC®CoC認証を取得しました。

※FSC®CoC認証：国際機関であるFSC (Forest Stewardship Council®) による森林認証制度のうち、認証林からの木材の流通や加工のプロセス (Chain of Custody) を認証する制度

技 を磨く

技能グランプリへの挑戦

日々、技術を磨くだけではなく、より多くの研鑽を積むために、若手を中心に社外の技能大会に参加しています。東京木工場が保有する木工技術は高く評価されており、「技能グランプリ (1級技能士資格者による全国大会)」を始め、さまざまな賞を受賞しています。

- 1997年 (平成9年) 第16回技能グランプリ「家具職種」金賞
- 2003年 (平成15年) 第22回技能グランプリ「家具職種」金賞
- 2004年 (平成16年) 第42回技能五輪全国大会「家具職種」金賞
- 2005年 (平成17年) 第23回技能グランプリ「家具職種」金賞
技能五輪世界大会「家具職種」に出場
- 2008年 (平成20年) 第45回技能五輪全国大会「家具職種」金賞
- 2009年 (平成21年) 第47回技能五輪全国大会「家具職種」金賞
- 2010年 (平成22年) 第48回技能五輪全国大会「家具職種」金賞
「IPEC (アイベック：インテリアのプロと企業をつなぐ国際展示会) 2010」優秀賞
- 2011年 (平成23年) 第26回技能グランプリ「家具職種」金賞
第49回技能五輪全国大会「家具職種」で2名が銀賞
- 2017年 (平成29年) 第29回技能グランプリ「家具職種」金賞



技能五輪、グランプリで獲得したメダル



墨付け作業



しくち 仕口、組手加工を行っているところ

kino style

オリジナル 木 製品

kino style

「木」の魅力、「匠の技」を伝えるために始めたオリジナル木工製品ブランド「kino style」。「木のある生活スタイル」、「新しい木製品のスタイル」をコンセプトに、伝統的でありながらモダンな「木」の手づくり製品を提案しています。



Master Craftsmanship

TOKYO MOKKOUJOU
ARTS & CRAFTS FURNISHINGS

清水建設株式会社

<https://www.shimz.co.jp/>

建築総本部 東京木工場

東京都江東区木場2丁目15番3号 〒135-0042

TEL. (03) 3641-4141 (代表)

東京木工場HP

<https://www.shimz.co.jp/mokkou/>

